

セミナー：インドネシアにおける森林管理政策・制度の現状と課題

- インドネシアでは1998年以降、地方分権化に伴う混乱などで違法伐採や森林の劣化が進行したが、森林管理政策の改善が進み、安定をみるようになった。現在では森林管理区（KPH）やインドネシア木材合法性証明制度（SVLK）などの先進的な森林管理や林産業への政策・制度が導入されつつあり、他のASEAN諸国にも影響を及ぼしつつある。
- またインドネシアはREDD+に関しても、東南アジアで最も制度構築が進んでいる。
- 日本においては2016年5月に合法木材促進法が成立し、輸入された木材についても合法性の証明とその執行状況の確認が求められるようになりつつある。この結果、木材流通・加工、住宅建設事業者や、林野庁などの行政関係者の間で合板の主要な輸入元のひとつであるインドネシアの森林管理の実態についての関心が高まっている。
- このため、インドネシアをはじめとする東南アジア諸国の自然資源管理に関心をもつ研究者、NGO、企業などを対象に、インドネシアの森林管理政策・制度の現状と課題についてのセミナーを行う。

招聘者

- **Agus Setyarso**（インドネシア林業専門家認証機関議長）
- **Bramasto Nugroho**（ボゴール農科大学林業学部森林管理学科教授）

12/15(木) 東京会場(東京大学中島ホール)

主なトピック: インドネシアの違法伐採対策とその執行のための取組、REDD+政策

主な参加者: 研究者、企業、行政関係者

他の発表者

- 鮫島弘光(地球環境戦略研究機関)
- 三柴淳一(FoE Japan)
- 百村帝彦(九州大学熱帯農学研究センター)

12/16(金) 京都会場(京都大学東南アジア研究所)

インドネシアにおける森林管理政策の現在

主な参加者: 研究者、大学院生

他の発表者

- 北山兼弘(京都大学大学院農学研究科)
- 神埼護(京都大学大学院農学研究科)
- 増田美砂(筑波大生命環境系)